

# 海水資源・環境シンポジウム 2013 ー環境保全に配慮した資源開発技術の構築に向けてー

日本海水学会 海水資源・環境研究会  
代表 尾上 薫

我々の便利で豊かな生活は、自然界からさまざまな資源を採取し、これらを原料にエネルギーや生活用の物資に作り替えることによって成り立っている。しかし、堀部純男 東京大学名誉教授が「海水の科学と工業」に、「現在の科学はまだまだ自然のごくわずかな側面を知っているに過ぎない。自然に対するわれわれの軽率な科学的・工学的活動が不愉快な出来事を引き起こす可能性が多いことは、過去の事例が証明している」と寄稿されているように、資源の無秩序な開発や乱用は、地球温暖化や大気汚染、水質汚染など、環境に大きなダメージを与えている。

日本海水学会では、これまで海水を対象に水、塩およびウランやリチウムなどの希少元素を含めたさまざまな資源回収に関する研究を活発に行い、膜、吸着、晶析技術など世界屈指の分離技術を構築してきた。これら分離技術は資源回収とは裏腹にある環境保全技術にも活用できるものと考えられる。

本シンポジウムでは、環境保全に配慮した資源開発技術の構築をテーマに、近年、問題になっているシェールガス採掘における随伴塩水および海水淡水化プロセスにおける濃縮海水の処理の現状と課題について事例を紹介するとともに、世界におけるこうした塩水の処理技術の動向についても紹介する。

主 催 : 日本海水学会 海水資源・環境研究会

協 賛 : (公財)ソルト・サイエンス研究財団、日本海水学会 若手会、(社)化学工学会、日本イオン交換学会、  
分離技術会、(一社)日本粉体工業技術協会 晶析分科会

開 催 日 : 2013年12月20日(金) 14:00~17:00

会 場 : 千葉工業大学津田沼キャンパス 5号館 6階会議室

講 演 : 以下の4つの講演を予定しております

講演 1	環境保全に配慮した資源開発技術の構築を目指して	千葉工業大学 教授 尾上 薫
講演 2	シェールガス採掘プロセスにおける随伴塩水処理の現状と課題	(独法)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 調査役 川村 和幸
講演 3	ウォータープラザ事業について ー海淡、下水等再利用統合システムの紹介ー	海外水循環ソリューション技術研究組合 事務局長 篠田 猛
講演 4	海水に関する技術的提言 - 主に RO 濃縮水処理について -	(株)サンアクティス 顧問 東郷 育郎

参加費 : 3,000円

技術交流会 : 講演終了後、同会場にて技術交流会を開催いたします。  
(17:30~19:00を予定)

定 員 : 80名

申 込 先 : 〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂 4-13-20  
(財)塩事業センター 海水総合研究所 (担当: 鴨志田)  
Tel: 0465-47-3161 Fax: 0465-48-6242  
E-mail: [shigen@swsj.org](mailto:shigen@swsj.org)

ア ク セ ス : JR 総武線/津田沼駅南口下車 徒歩 1分  
(東京駅から快速で 28分)  
京成線/京成津田沼駅下車 徒歩 10分  
(京成上野駅から快速で 37分)  
新京成線/新津田沼駅下車 徒歩 3分

